

### 会津若松市の概要

福島県の西部に位置し、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたまちです。江戸時代には会津藩の城下町として盛え、若松城（鶴ヶ城）や白虎隊などの観光資源や、酒・漆器等の地場産業が有名です。会津の三泣き(会津に来たときはその閉鎖的な人間関係に泣き、会津の地元になじんでくると今度は人情の深さ泣き、会津を去るときは会津人の人情が忘れ難く泣く)と言われるように、地元への愛着が強い地域です。

#### 【基本情報】

平成28年1月1日現在

#### ●人口

122,749人

#### ●65歳以上高齢者人口

34,247人

#### ●高齢化率

27.9%

#### ●要介護認定率

20.4%

#### ●第1号保険料月額

5,850円

#### ●地域包括支援センター

7ヶ所



会津特産  
若松つつん



# ●事業内容（若松第3地域包括支援センターの取組の例）

## 〔取組のポイント〕

地域包括支援センターの担当地区より小さい地区単位での、住民を巻き込んだ地域に根ざした取組

	全体会議	ミニケア会議	個別ケース会議
対象範囲	小学校単位（2地区）	町内会数ヶ所単位（5班）	個別ケース単位
回数	各地区年4回	班毎に年4回（計20回）	随時
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区長会</li> <li>・民生委員</li> <li>・高齢者福祉相談員</li> <li>・保健委員会</li> <li>・ボランティア団体</li> <li>・公民館職員</li> <li>・社会福祉協議会職員</li> <li>・市役所職員 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員</li> <li>・高齢者福祉相談員等</li> </ul> ＊班や実施内容によって異なる。区長、地元スーパー、大熊町地域包括支援センター、大熊町民生委員等も出席。	＊検討ケースごとに異なる。区長・近隣住民・民生委員・高齢者福祉相談員・駐在所・保健所・病院・市役所・司法書士・アイネット・配食弁当・ケアマネージャー・介護保険事業所 等

### 全体会議

地域全体の課題の検討、方針決定  
交流する場所がない。集まりがない（減った）。  
地域でみんなが楽しく遊べる場を作ろう！

### ミニケア会議

各班毎に地域課題の把握・整理をし、  
アクティブプランニング（サロン立ち上げ検討）

### 個別ケース会議・総合相談

個別ケースの対応から地域課題（ニーズ）の把握

町内会と  
コラボしたサロン

地元のスーパーと  
コラボしたサロン

公民館と  
コラボしたサロン

コミュニティセンター  
とコラボしたサロン

介護事業所と  
コラボしたサロン

全体会議に報告。評価。来年度の課題を検討。

# 地域ケア会議の検討からの取組事例

○町内会内に災害復興住宅ができ、大熊町の地域包括支援センター職員との「閉じこもりが心配」「大熊町の方々と町内会住民との交流等ができればいいのでは。」などの話からミニケア会議で区長に相談  
集会所がないから、近くのスーパーと一緒に相談に行ってみよう。



## 地元スーパーとコラボ 大熊町包括とのコラボ 『リオンドール・スマイル会』

- ・月1回スーパーの一角に6名位が集まる。
- ・第3包括と大熊包括が交代で活動当日の支援。
- ・地域住民が折り紙やハンドマッサージなどの講師役になっている。
- ・災害復興住宅に集会施設ができたから、その利用も検討したい。



○一人の相談から  
・震災のため、市内の子供宅に引き取られた高齢者のつぶやき「嫁には寝たきりや認知症にならないように出掛けると言われるけど、友人もいないし、行くところもない。」  
地域ケア会議(全体会)で公民館と相談



## 公民館とコラボ 『南公民館 よろずお楽しみ会』

- ・月1回 2~3人から25人以上に増え、みんな楽しみにしている。
- ・参加者層が「学びが好きな人が多い」  
公民館や食生活改善推進員などの力を借りて、健康講座や料理教室などを参加者がやりたいことを決めている。



○ミニケア会議で、  
・公民館や老人クラブ活動に入っていない教員や公務員等のOBの男性が多い。  
・奥さんに頼りっきりで、一人になったら心配



## コミュニティセンターとコラボ 『男の料理教室』

- ・月1回 15人位が500円持って集まる。
- ・初回は男性民生委員がさくらで参加⇒楽しくなって継続参加
- ・指導者はいない。献立は皆で決める。毎回次回のリーダーを決めて、買い物等の準備をする。
- ・地域活動・ボランティア活動にも参加する人が出てきた。
- ・新たに他の地区でも始まりそうである。





# 成果と課題

## 取組の成果

- 平成27年度だけで7カ所の新たなサロン活動が始まり、合計23カ所になった。
- 口コミ効果で、センターから働きかけなくても、新たにサロンを始めたい住民や町内会自らがセンターに相談して来るようになった。
- 様々な特技を持つ地域住民が講師などの役割を持ち、いきいきと活動し、生きがいづくりになっている。
- 地域活動に協力したいと集いの場や人(リハ職など)を提供してくれる介護サービス事業所や施設等が増えた。

## 今後の展望

- 地域住民が元気で笑顔あふれる、「やりたい」「楽しい」「また来たい」と思える、『地域の遊び場』(サロン)を増やしていきたい。
- 地域の様々な人や機関、団体、活動などの繋がりを強め、サロン活動だけでなく、地域の特性に応じた地域住民同士の見守り・支え合いに発展させていきたい。
- 会津若松市内の7カ所の地域包括支援センターが協力して、各地域の様々な住民主体の介護予防や地域支え合いの先進的な活動を『見える化』して、地域の輪を増やし繋げていきたい。



みんなで地域の輪を一つ一つ繋げていきましょう♪

# 白河市

## 個別ケース検討の積み重ねによる地域課題の把握と政策形成

### 白河市の概要

福島県の南部中央に位置し市中央部から福島市まで約90km、郡山市まで約40kmの距離にある。また、東京までは約185kmで、新幹線で最速約1時間10分の距離にある。

#### 【基本情報】

平成28年1月31日現在

#### ●人口

62,275人

#### ●65歳以上高齢者人口

16,302人

#### ●高齢化率

26.1%

#### ●要介護認定率

17.9%

#### ●第1号保険料月額

5,800円



# 白河市地域ケア会議の概要

## ●事業内容

担当	レベル	会議名	会議の概要	機能				
				①	②	③	④	⑤
地域包括支援センター	個別	個別ケア会議	介護保険サービスの導入のみでは問題の解決が図れないケースの検討を行い、問題の解決策について多職種協働で意見交換をし、個々の高齢者の課題の抽出と解決策の検討を行う。	○	○	○		
	日常生活圏域	地域包括ケア会議	個別ケア会議において抽出された高齢者の課題を積み重ね、地域に潜在する課題の抽出を行う。また、地域の関係者と課題の共有を図るとともに、地域課題の解決策を検討する。		○	○	○	
市全域		地域ケア推進会議	地域包括ケア会議により積み重ねられた地域課題をもとに、開催テーマを決定し、多職種協働で問題解決のための仕組みづくりの検討を行う。		○		○	○

機能：①個別課題解決機能 ②ネットワーク構築機能 ③地域課題発見機能 ④地域づくり・資源開発機能  
⑤政策形成機能

## ●取組のポイント

個別ケース検討から政策形成までの道筋が明確であり、実際に政策形成につながっている。

# 平成27年度「地域ケア会議推進会議」の取組

開催月日	テーマ	議題となるまでの経緯と会議の内容
4月28日	認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業の効果的な運用について	<p>平成26年度の「個別ケア会議」では、認知症の人が徘徊した時に、早期に発見できるシステムの構築が必要との地域課題があげられた。また、個人情報保護の観点から、徘徊した認知症高齢者の情報を、地域包括が得られないことより、介入のタイミングを逃してしまうという課題があげられた。</p> <p>そこで、認知症高齢者（2号被保険者を含む）の徘徊が発生した時に、先進事例を参考に、早期に発見できるシステム（メールの一斉送信を予定）運用に向けた話し合いを行った。また、地域の住民の声かけによる徘徊予防のための積極的な認知症サポーター養成講座の開催や、徘徊後にサービスにつなげるための関係機関同士の情報共有のあり方について話し合った。</p>
4月28日 7月28日	地域のネットワークを活用しながら行う家族介護支援	<p>白河市では地域包括支援センターの重点事業として「介護家族支援」を行っているが、現在の事業としては「家族介護教室」（単発）が主である。そこで、介護家族が活用できる地域資源の抽出を行った。</p> <p>また、平成26年度の個別ケア会議では、認知症の人を介護する家族が、認知症の人を隠してしまうという地域課題が抽出された。そこで、認知症の介護家族が、精神的負担を軽減することができ、認知症について学ぶ場としての「認知症カフェ」の効果的な運営について話あった。</p>
7月28日	高齢者の自立支援のための地域におけるリハビリテーション専門職の活用	<p>市内のある事業所のリハビリ専門職に、介護支援専門員から「住宅改修の手すりの位置や種類」「転倒予防のための入浴の仕方」「デイケアか？デイサービスか？」など相談があり、事業所の職員がボランティアとして家庭訪問していた。しかし、福島県理学療法士会・作業療法士会県南支部より地域全体のリハビリ専門職の質を向上させるためには、システム化が必要と提案があった。</p> <p>①個別ケア会議でのアドバイザーとして②家族介護支援事業の地域資源の1つとして③高齢者サロンの運動指導講師として（主に理学療法士）④認知症カフェの相談員として（主に作業療法士）⑤認知症高齢者支援ボランティア「あんしんメイト」の対応力向上のため、リハビリ専門職を活用することが話し合われた。</p>

話し合いをもとに・・・

- 認知症の介護家族が精神的負担を軽減することができ、認知症について学ぶ場としての「認知症カフェ」を開設。
- 認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業を実施。

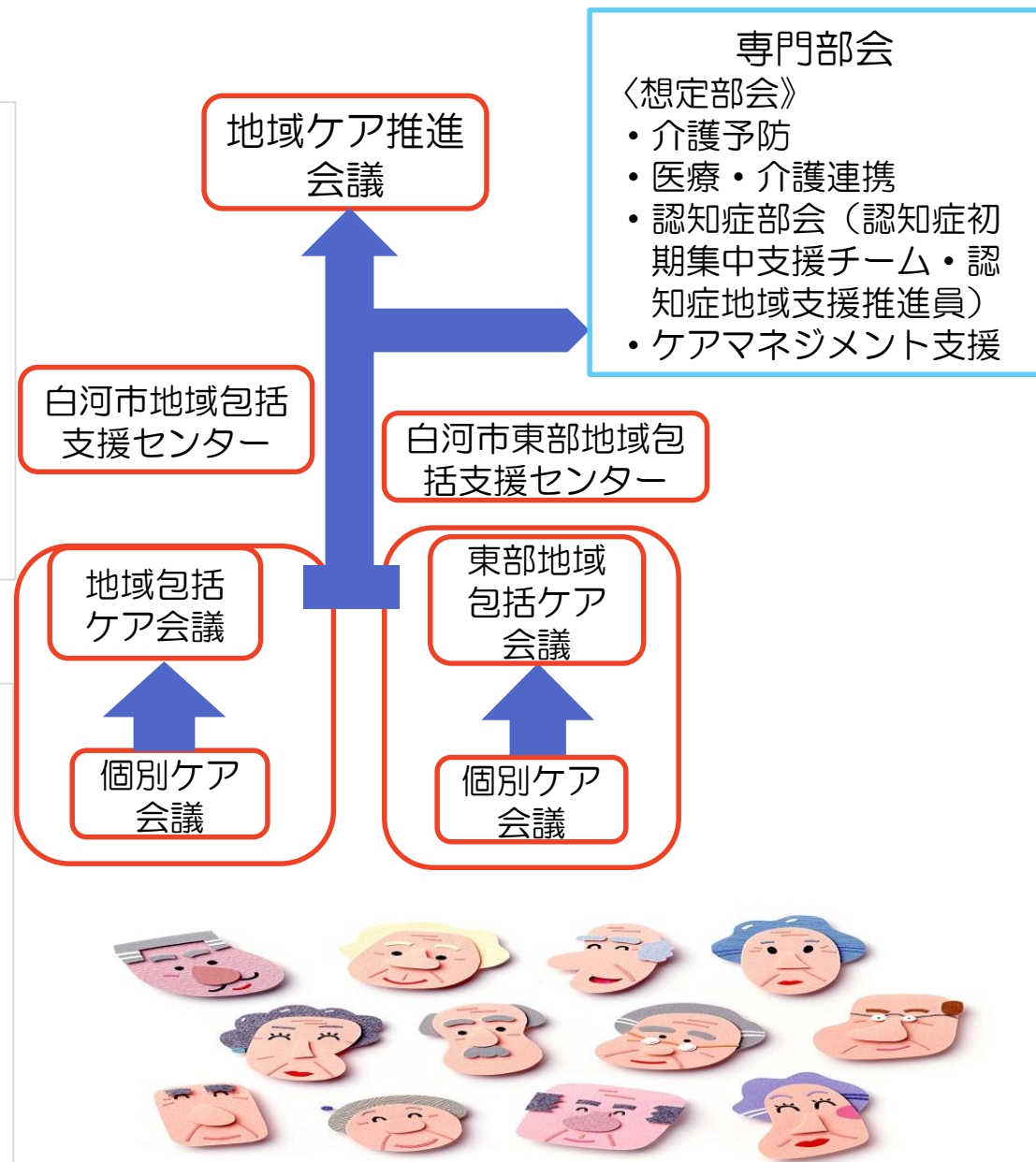


## 取組の成果

- 個別ケア会議で話し合われた事例と同じようなケースの場合「そういえば、前はこんな風に解決したな」との道筋
- 介護支援専門員が「あったらいいなこんなサービス」等と先進的事例や社会的動向への意識が高まった。
- 地域課題が蓄積され、政策形成のうえで、重要なデータとなっている。

## 今後の展望

- 「あったらいいなこんなサービス」が施策に反映され、高齢者がより暮らしやすい地域形成へつなげたい。
- 蓄積されたデータをフィードバックし、個別会議に上げる件案の質の向上を期待したい。
- ケア会議のアドバイザー等による研修を積み重ね、ケア対応能力の向上を図りたい。
- 生活支援コーディネーター、協議体、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員と連携し、社会資源の発見の場としたい。





# 石川町

## 多職種で考え、取り組む地域ケア会議

### 石川町の概要

石川町は中通り南部、阿武隈高地の西側に位置し、豊かな緑と美しい自然に包まれ、長い歴史と伝統を伝承し石川地方の中心都市として発展してきた。明治前期“自由民権運動”の発祥の地であり、春には、街の中央を流れる2つの川沿いに2000本の桜並木が一斉に花開き、多くの観光客が訪れる。

#### 【基本情報】

●人口

16,197人

●65歳以上高齢者人口

5,279人

●高齢化率

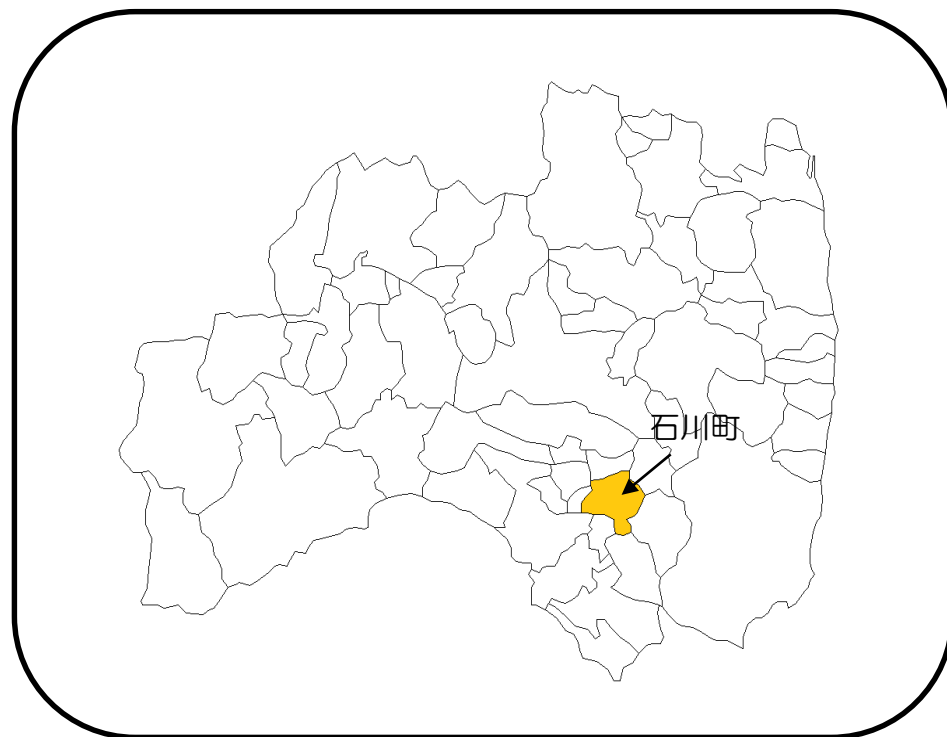
32.59%

●要介護認定率

18.79%

●第1号保険料月額

5,600円



# 石川町地域ケア会議の概要

## ●事業内容

実施主体	地域包括支援センター（町直営）
会議名称	地域ケア会議
背景	介護保険を通して現場のスタッフが把握したケースの困りごとや課題を多職種間で共有し、地域に必要な支援や資源、各々の機関の役割を考えるために、平成14年から地域ケア会議を開催している。
会議の流れ	<p>① 個別ケースから、こんな困りごとを持ったケースが地域の中にある、こんな事が我が町で起こっているという事実・・・個のケースの課題を、参加者みんなで共有する。</p> <p>↓</p> <p>② 個別ケースを切り口に、同じような困りごとはないのか、同じようなことが起こる可能性はないか・・・地域の現状や課題を出し合い、個の課題ではなく、『町の課題』であることを確認しながら、課題を整理する。</p> <p>↓</p> <p>③ 課題解決のために、地域に必要な資源・取り組みを考え、具現化に向けて協議する。どうなったら良いのか、目指す方向、その実現に向けて何が必要か、どうやったらできるか、その機能はどこが担うのか等を具体的に検討する。可能性や望みも含めて、参加者みんなで知恵と工夫を声に出し合いながら考える。</p> <p>↓</p> <p>④ 話し合ったことを全体で共有・確認する。 *ファシリテーションができるように、会議のゴール、プロセス、ルールを明確にするための企画書を作成し、地域包括支援センター内と関係部署とで共有しておく。</p>
参集範囲	居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、医療機関、社会福祉協議会、町職員 等

## ●取組のポイント

地域ケア会議の積み重ねによる地域課題の把握。課題を多様な視点から考え、話し合える関係の構築。

# 地域ケア会議の検討事例

## 「在宅での看取りの支援を考える」

<p>検討に至った背景</p>	<p>独居ケースの在宅看取りについて、支援者が抱えていた「これで良かったのか？」を、何をもって「良かった」と言えるのか検証し、在宅看取りについて考える。</p>
<p>ケア会議での検討内容</p>	<p>独居の在宅看取りケースをもとに、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本人にとっての幸せとは何か、どうしてこの看取りが可能になったのかを検証。</li> <li>●在宅での看取りを可能にする連携強化・体制づくりを進めるための具体的な取組みを検討。</li> </ul> <p>*出た意見をWill (やりたいこと)、Must (しなければならないこと)、Can (できること) に整理する。</p>
<p>検討から生まれた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会議の検討結果を医師会長に報告し取り組みへの協力を依頼。その結果、医師会と合同の地域ケア会議（事業所、医師会、行政が一堂に会して看取りについて検討）が開催でき、各々の役割や連携の在り方の共有を図った。さらに、医師会と包括が共同で、住民向け「看取りのシンポジウム」開催に至り、継続している。</li> <li>●いろんな機会を通して、地域住民、介護関係者への看取り教育を実施。</li> </ul>

# 成果と課題

## 取組の成果

- 地域ケア会議の積み重ねによる地域課題の明確化
- 課題を住民・関係者と共有し、協働するための下地構築
- 多職種間の連携強化（会議を通して仲間になれる）

## 今後の展望

- 地域包括支援センターと町の役割の整理
- 政策形成のための地域ケア推進会議の機能化
- 連携の拡充（もっと多くの人と、もっとしっかりつながる）



会議風景：検討した内容の共有と確認場面（参加者がプレゼン）



# 浅川町

# 顔の見える関係と「あったらいいな」の地域づくり

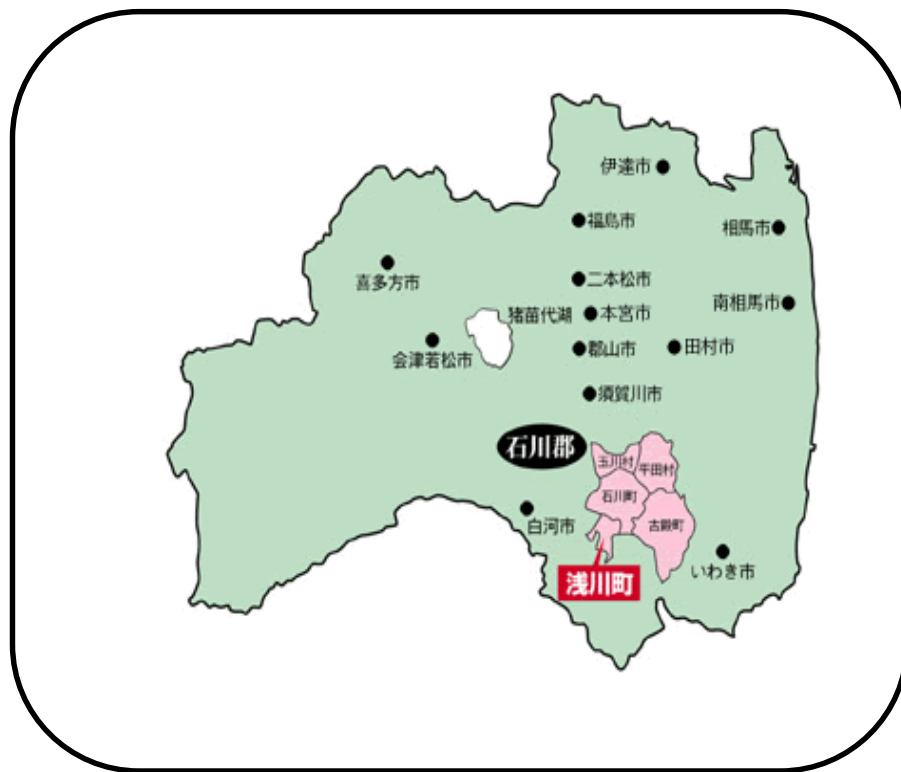
## 浅川町の概要

当町は福島県中通り地方の南部に位置し、東西8km、南北12km、総面積37.43km<sup>2</sup>の小さな町で、阿武隈連峰の雄大な自然と美しくのどかな田園風景が広がる豊かな自然がいきづいている町です。

「花火の里」でもある当町では、県内最古の300有余年の歴史と伝統を誇る花火大会を開催しており、毎年8月16日には県内各地から多くの見物人で賑わいます。特に、山の頂上で打ち上げる「大地雷火」は、山が噴火したような大迫力で大会のフィナーレを飾ります。

【基本情報】 平成27年9月1日現在

●人口	6,555人
●65歳以上高齢者人口	1,917人
●高齢化率	29.2%
●要介護認定率	15.1%
●第1号保険料月額	4,900円



# 浅川町地域ケア会議の概要

## ●事業内容

実施主体	町	地域包括支援センター
会議名称	地域ケア会議	ケアマネ連絡会
背景	<p>居宅介護支援センター（特別養護老人ホーム さぎそう業務委託）の設置を機に、平成18年度から月1回開催。</p> <p>当初は、高齢者支援についての行政機関や関連機関等との情報交換を目的として始まった。</p>	<p>地域包括支援センター（石川福祉会へ業務委託）の設置に伴い、平成18年度から年6回（奇数月）開催。</p>
検討内容	ケアマネ連絡会での困難事例、社会資源の情報共有及び内容の検討。	ケアマネージャーの困難事例、ケアマネージャーからの要望の提案、町内医師との連携及び情報の共有。
参集範囲	<p>地域包括支援センター、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、介護入所施設、町（高齢者福祉・介護・障がい担当課、保健センター）</p> <p>※必要に応じて地区民生委員・行政区長・警察署・駐在所・消防署・学校・教育委員会等が参加。</p>	<p>居宅介護支援事業所、地域包括支援センター</p> <p>※必要に応じて行政担当者も参加</p>

## ●取組のポイント

ケアマネ連絡会での検討内容をもとに、地域ケア会議で「あったらいいな」を出し合い検討。

# 地域ケア会議の検討事例「見守り支援の強化」

## (平成22年度～)

課題	ケアマネ連絡会の中で、「高齢者一人暮らし世帯の見守りの機会が少ない」との意見
当時の状況	社会福祉協議会で行っている一人暮らしの方への無料の配食サービス（月2回）と一人暮らし会食（年4回）のみ
ケア会議での検討内容	<p>地域ケア会議で「地域にあったらいいな」を出し合い検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティアの見守りや地域の理解者が増えたらいいな</li> <li>●外勤職種（郵便局員等）が見守ってくれる体制が作れたらいいな</li> </ul>
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●傾聴ボランティア（訪問活動）の育成及び活動支援（平成22年度～）</li> <li>●外回りの仕事をしている事業所との見守り支援協定の締結 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活協同組合：平成25年6月7日</li> <li>・郵便局：平成27年4月22日</li> </ul> </li> <li>●認知症サポーター養成講座の実施により、サポーターの増員（平成18年度～）</li> <li>●高齢者サロン等の活動と見守り支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者サロン13か所（月1～2回）、運動サークル6か所（週1回）</li> </ul> </li> </ul>

# 成果と課題

## 取組の成果

- ケア会議を継続してきたことにより顔の見える関係性が築けている。
- 町で制度化されていないような困難な事例であっても、意見を出し合え、情報を速やかに共有できる環境にある。  
→常に関係者が集まって地域づくりの話し合いができる状況にある。

## 今後の展望

- 地域ケア会議に住民や各地区組織方の参加をいただき、『地域で高齢者を支えるための環境づくり』の必要性を共有し、住み慣れた地域で少しでも長く楽しく暮らせるように、意見を反映していく。  
意見を基に、住民と協働しながら、見守りや支えあいのできる事業を地域の中で具体化していく。

